

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第2号

令和 元年 7月 22日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 岩 羽 純 一

【提案日時】

7月 3日 (水)

提案 岩羽 純一 先生 (仏向小)

【会 場】

横浜市立丸山台小学校

司会 小池 智弘 先生 (汐入小)

記録 高山 奈奈子 先生 (小雀小)

【授業研分析提案】

鴨志田緑小 金井 伸一 先生

単元名「私たちと横浜の水～人々の願い 毎日使う安心・安全な水をおいにかけて～」

<成果>

視点①「子どもの疑問や予想から、社会的事象の見方・考え方を働かせて作る学習計画」

- 子どもに見通しをもたせて活動の方向性を決め、活動の中から生まれた問題意識を柔軟に取り入れて学習を展開したことで子どもたちの振り返りからは意欲が高まっていく様子が感じられた。子どもの思考に寄り添った学習過程を実現できたことを成果として挙げる。

視点①「単元のふり返しをする場面の設定」

- 「水道水」がいつでもあるのは、当たり前のことではなく、多くの人が協力をして安全でおいしい水を作っているというものである。この考え方は、単元を通して学習を積み上げてきたからこそできるものである。それは、単元を通して学習を積み重ね上げてきたからこそできるものである。

視点②「問い返しと全体への投げかけ」

- 金井教諭の問い返しと指名、全体化により、子どもの言葉で本時目標に迫るためのきっかけを作ることができていた。子どもが主体となって問題追究できている成果である。

<提案内容>

① 問い返しと資料提示

- 「沈殿池ってさ、何をするとところだっけ？」という問い返しから【雨の日の道志川】の資料を提示し、「じゃあ、沈殿池の役割について近くの人と話し合ってみよう。」とつなげていく。それによって、曖昧な理解だと思われる沈殿池と浄水場の役割の違いを意識することができる。さらに子どもたちが「きれい」と捉えている道志川の水が濁った資料を提示することにより、沈殿池と浄水場の関係性が話し合いの中心になるのではないかと考える。

② 資料の吟味

- 本時で提示されていた5つの資料を吟味し、十分に考える時間を確保したい。また、意見を共有するのであれば、より少ない資料で効果的な提示をねらいたい。そのために、資料①【青山沈殿池の写真】と資料⑤【濁った道志川の写真】に精選することで、青山沈殿池の役割に迫っていけるのではないかと考える。

【グループ討議】

③ 問い返しと資料提示について

- ・「人」に焦点を当てた授業だったからこそ、「人」についてのふり返りができた。
- ・「人」がたくさん出てくることで意欲が高まった。
- ・「安全に」「きれいに」は同じ意味ではないと感じるのでもっと明確に引き出せるとよい。

④ 資料の吟味について

- ・資料を絞ること、特に①と⑤の資料は効果的だと感じる。
- ・汚れの話のときには⑤の資料を出すよかった。
- ・所長の話は本時ではなく、前時でも効果的だったのではないか。

参会者より

- ・「川井浄水場に沈殿池はないのはどうして？」という学習問題に対して、後半は「青山沈殿池は何のためにある？」の問題にすり替わっていた。つまり最初に全体化されていた学習問題と本時目標にずれが見られた。学習問題について話し合う中で、問題の視点が転換したり問題そのものが移り変わったりするのであれば、一度全体で、「今、何について考えていくのか」が必要だったのではないか。

学年担当校長：浦島小校長 鳥山 真 先生より

- ・学習問題は教師が追究したいことと子どもが追究したいことをすり合わせることで、本気の学習問題の設定につなげていけたらよいのではないか。
- ・教師が、単元を通して身に付けさせたい力を明確にし、最後の姿を意識することで子どもたちがどう考えていけばよいかより明確になっていくのではないか。

市社研会長：丸山台小校長 新井 篤志 先生より

- ・単元づくりにおいて、「水」は非常に見えにくい材である。見えにくい材料のため、教材の一部を見せがちだが、全体を捉えさせていくことが大切である。
- ・資料や発問を通して、単元の全体像を授業の中に見えるようにしていくことが大切である。